

和泉市における来訪者誘致のための研究  
～和泉シティプロモーション戦略を通じて～

阪南大学 国際観光学部

清水ゼミ

上谷侑実 谷川楓 西岡優人

増永匡俊 南垣春菜

目次

1章 はじめに

- 1-1. 研究背景
- 1-2. 研究目的

2章 事前調査

- 2-1. 和泉市の概要
- 2-2. 和泉シティプロモーション戦略

3章 和泉市の来訪者誘致を目的としたイベント

- 3-1. 和泉市のイベント
- 3-2. ランタンイベント企画・提案
- 3-3. 宝探しイベント
  - (1) 宝探しイベントの概要
  - (2) アンケート概要
- 3-4. 現地調査
  - (1) ロードインいずみにヒアリング調査 内容と結果
  - (2) フィールドワーク調査
- 3-5. 動画制作
  - (1) 歴史を感じられる街
  - (2) 自然もあり都会の部分も感じられる「とかいなか」

4章 分析

5章 まとめ

# 1章 はじめに

## 1-1. 研究背景

和泉市は大阪の南部に位置し、河内長野市や堺市など5市1町に隣接している。平成26年ららぽーと・コストコができ、平成25年和泉市を活性化させることを目的とする「和泉シティプロモーション戦略」が策定されたが、まだ具体的な効果が表れているとはいえない。しかし和泉市には歴史ある遺跡や伝統産業が多く残っており、和泉市の資源の魅力を多くの人に伝えることができないかと考えた。

国土地理院承認 平14総撰 第149号

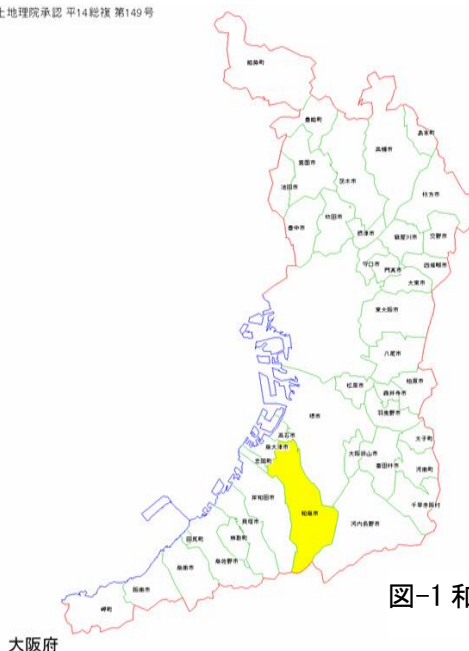


図-1 和泉市の位置

## 1-2. 研究目的

学生の視点から和泉シティプロモーション戦略を促進させることを目的とする。和泉市の目的は来訪者の増加であり、市外からの来訪者の促進を主に考える。潜在的なニーズは、ふらっと半日、ついでの立ち寄りといった日常の延長の中での、和泉市近隣からの“お出かけニーズ”である。そこで和泉市は20代から30代の女性を中心にターゲットとしている。「和泉シティプロモーション戦略」の中には「定住促進・来訪促進・ビジネス促進」という3つの柱があり、その中で私たちは来訪促進に焦点を当て、学生からの視点で研究を行う。

# 2章 事前調査

## 2-1. 和泉市の概要

旧石器時代の石器が和泉市で発見され、遠い昔から人々が生活を営んでいたと考えられる。弥生時代の集落遺跡である池上曾根遺跡、平安時代の熊野詣の参詣道である「小栗街道」があり、江戸時代～明治時代にかけては農業で栄えた。昭和31年9月1日、当時の和泉町と北池田、南池田、北松尾、南松尾、横山、南横山の1町6ヵ村が合併した。人口約5万人の市として第一歩を踏み出し、昭和35年には八坂町、信太村を編入、現在の市域を形成した。平成7年4月に「和泉中央駅」の開業と「桃山学院大学」の開校を実現し、平成10年には人口が17万人を突破し、平成26年12月末現在では18万7434人にまで増加している。

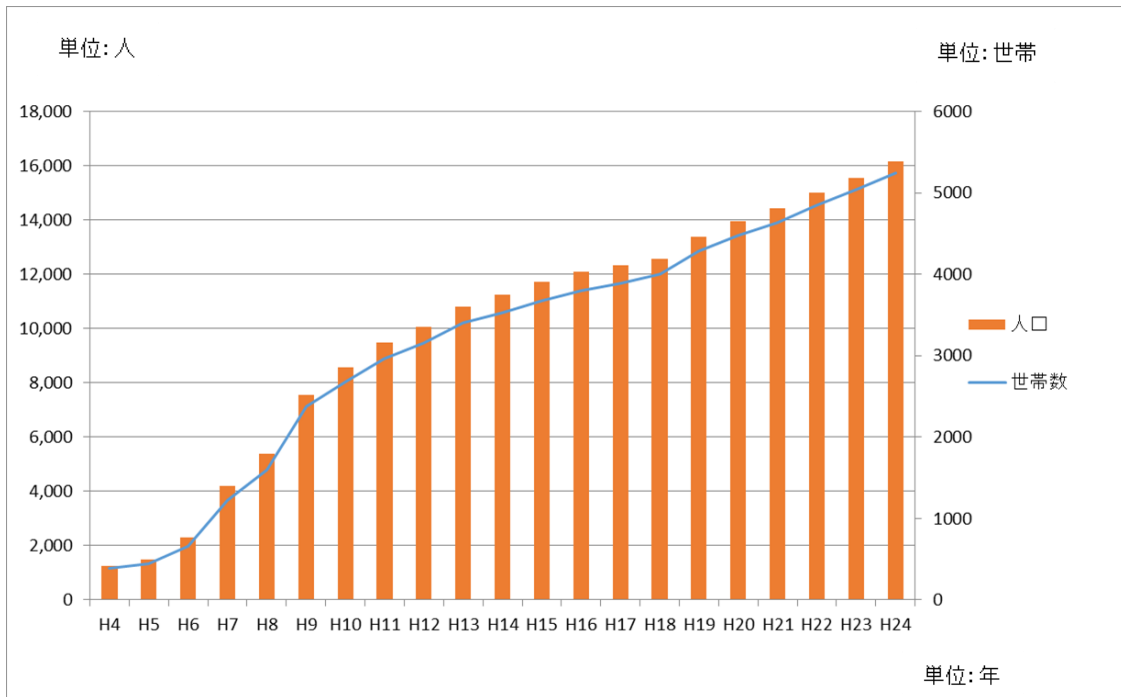


表-1 和泉市人口推移

和泉市のイメージキャラクター

コダイくん

ロマンちゃん



図-2 和泉市コダイくん・ロマンちゃん第 85 号

コダイくん・ロマンちゃんは、池上曾根遺跡の「いずみの高殿」「やよいの大井戸」が発掘された衝撃で、2000年前に栄えた「イズミ国」から、現代の和泉市にタイムスリップしてきたという設定で生まれた。

## 2-2. 「和泉シティプロモーション戦略」

「和泉シティプロモーション戦略」は平成 25 年 3 月に制定された。「定住促進・来訪促進・ビジネス促進」この 3 つの戦略を柱とし、主として市外を対象とした和泉市を売り込むプロモーション戦略である。プロモーション・ターゲットゾーンを設定し、ターゲットのニーズを強く意識したプロモーションを展開して効果を狙う。プロモーション・ターゲットゾーンとは、

情報の受け手としてターゲットとする層（中心的な対象者）を指す。

1つ目の「定住促進」は、20～40歳代の子育て世帯をターゲットとする。定住先を探している子育て世帯に、和泉市の魅力を知ってもらうとともに、実際に定住先として移り住むことを目標とする。子どもの増加にもつながり、まちの持続的な発展にもつながる。

2つ目の「ビジネス促進」は新規参入企業、起業者、新規出店者をターゲットとする。和泉市は新たなビジネスを生み出す土壌を秘めているので、ターゲットとしている企業などがビジネスチャンスを知り、実際に進出・出店する事を目標とする。

そして3つ目に私たちが焦点を当てる「来訪促進」は20～30歳代の女性をターゲットとしている。性別・年齢別においても観光に興味が高い層であり、友人や家族などを伴うことも多く、活発な消費が期待できる。和泉市には見る、聞く、食べる、触れる、心を寄せるなど、五感で感じる要素が数多くある。美しい街並み、手軽に訪れたいくなるような魅力スポット、みかんを使った加工食品やガラス細工、さをり織り、ハイキングなどの体験型観光資源も充実している。これらの要素をターゲットに効果的にアピールすることで、来訪意欲を高める。

### 3章 和泉市の来訪者誘致を目的としたイベント

和泉市には今まで冬に来訪者を誘致するイベントが行われてこなかった。そこでまず私たちは、和泉市で行われる宝探しのイベントに参加し、続いてフィールド調査を行うと同時に、参加者へのアンケート調査、商店街でのヒアリング調査を行った。この調査を元にイベントを企画した。この章では以上の事柄について説明を行う。

#### 3-1. 和泉市のイベント

和泉市には、自然や歴史や商業施設など多様な観光資源がある。それらを活かし、最近では来訪者に向けたイベントを開催している。四季に合わせた様々なイベントが開催され、春には池上曾根遺跡で行われる弥生まつり、夏には桃山学院大学を借りて行われるグルメグランプリ、秋には和泉府中駅付近で行われるだんじり・みこし祭りなどがある。しかし、冬には来訪者を誘致する大きなイベントがなかった。

#### 3-2. ランタンイベントの企画・提案

今年の冬、初めて和泉市は宝探しイベントを企画した。さらに来訪者を誘致するため、それと並行して、私たちは和泉府中駅近くにある「ロードインいずみ」という商店街でランタンのイベントを企画した。現在、和泉府中駅は整備されているが、駅から近い商店街は暗い印象があり、利用する人も少ない。そこで、私たちはランタンを使ったイベントを考案した。このイベントを成功させるべく、商店街の方に協力してもらい、普段利用しない人に商店街の魅力を伝える。

ランタンイベントの内容として、ランタンとは提灯のようなものであり、暖かみのある優し

い光を放つものである。そのランタンを使って、暗い印象の商店街をイベントによって暖かみのある商店街へと変えるため、私たちはこのイベントを企画した。このイベントは、平成 26 年 12 月 21 日に和泉市で開催される宝探しのイベントと並行して行う。宝探しのスタート地点とゴール地点は商店街にある「和泉市いずみの国観光おもてなし処」である。そこに宝探し参加者が多く集まると予想されるため、ランタンを使ったイベントを行う。そこで多くの参加者を募り、ランタンの魅力、そして商店街の魅力を感じてもらうことを目的とした。イベントで使用するランタンは牛乳パックを再利用する。その牛乳パックに和泉市のキャッチフレーズである「ココロ トリコ イズミ」の文字を切り抜き、当日までに私たちで 200 個用意する。その切り抜きから光が漏れる仕組みになっている。参加者にはそのランタンに和泉市の好きな点や誇れる点を描いてもらう。そのランタンを数百 m ある商店街の通路の真ん中に並べる。

私たちはこのイベントを企画するにあたり、成功事例である兵庫県の高砂市役所へヒアリング調査を行った。高砂市は平成 19 年から毎年 9 月に「たかさご万灯祭」というイベントを行っている。高砂町が兵庫県の歴史的景観形成地区に指定されたことを記念し、「和み」「水」「夢」をテーマに町並みを約 6 km のキャンドルで繋ぐイベントである。ランタン以外にも歴史的建物がライトアップされ、地元の物産品も多く集められている。イベントが始まった平成 19 年には約 1 万人の来訪者が訪れていたが、年々増加し、去年はイベントが開催された 2 日間で約 8 万人を集客した。ヒアリング調査で「たかさご万灯祭」の概要やその宣伝方法、イベントの傾向について話を聞いた。また、私たちが企画しているランタンを使ったイベントに



写真-1：牛乳パックで制作したランタン

についてもアドバイスをもらった。ヒアリング調査で聞いたことを参考にし、ランタンを使ったイベント企画について和泉市役所と話し合いを進めた。しかし、各機関への話し合いが十分まとまらず、この企画は見送られた。

### 3-3. 宝探しイベント

平成 26 年 12 月 21 日和泉市での宝探しイベントに参加し、参加者へアンケート調査を行った。このイベントは大阪府が主催し、タカラッシュという企画会社が企画・監修したイベントを和泉市で開催する。過去に、奈良県や神奈川県、徳島県など全国で行われているイベントである。

#### (1) 宝探しイベントの概要

参加費は無料である。このイベントを通じて、JR 阪和線に並行する熊野街道周辺の「みどり」を体感する。市内の各エリア 3 ヲ所に宝箱を設置し 3 つの謎を解き、宝箱を発見する。宝箱の中のキーワードを 3 つ全て回答用紙に記入し、発見報告所に提出すると発見者賞がも



図-3：宝探し地図

らえる。さらにその中から抽選で商品が当たる。発見者賞は「タカラッシュカード」である。(リアル宝探しイベント会社「タカラッシュ！」が企画・監修する宝探しイベントでもらえるカード)

## (2) アンケート概要

商店街の中にある「和泉市いずみの国観光おもてなし処」でイベント参加者にアンケート調査を行い、38枚のアンケートを回収した。アンケートの結果は下記の通りである。

① どこから来ましたか？

・和泉市民 12名 和泉市外 15名 大阪府外 11名

② なぜ参加しましたか？

・宝探しのみ目的 19名 保護者として 6名 運動ができる 4名 他 9名

③ 次も参加したいと思いますか？

はい 38名 いいえ 0名

④ なぜそう思われましたか？

おもしろかった 10名 子どもが喜ぶから 6名 謎解きが楽しい 3名 他 19名

⑤ このイベントをどこで知りましたか？

タカラッシュ！HP 6名 チラシ 5名 大阪府HP 4名 他 23名

⑥ 他にも和泉市でイベントがあれば来られますか？

はい 38名 いいえ 0名

⑦ どんなイベントがあれば参加したいですか？

子ども向け 9名 宝探し 4名 他 25名

⑧ 和泉市で誇りに思えるものは何ですか？

歴史 7名 緑が多い 5名 町並み 3名 他 23名

⑨ どんな和泉市になってほしいですか？

子育てをしやすい市 6名 住みやすい市 4名 歴史を大切にする市 2名 他 26名

## 3-4. 現地調査

### (1) ロードインいずみにヒアリング調査 内容と結果

この宝探しの開催日に商店街にある店舗にヒアリング調査を行った。商店街ができた約60年前と現在を比べると、大型商業施設ができた影響もあり、商店街の利用者が減少している。営業している店舗も以前より少なくなり、シャッター街化しつつある。また、休日に大型商業施設を利用する人が多いため、商店街の利用者は平日の方が比較的多い。以前のように利用客を誘致したいが、商店街の需要がないため難しい。また、店舗の後継者もおらず、特に若い世代が利用しやすい環境づくりが求められる。

商店街の利用客は、地域住民など常連客が利用者の大半を占めている。来訪者はほとんどおらず、若い世代の利用者も少ない。今後はイベントを行うなどで活性化を目指し、空き店舗をうまく利用してシャッター通りをなくす必要があるとのことである。

## (2) イベントへの参加

動画を作成するに当たり、宝探しのイベントでのアンケート調査と並行して私たちは宝探しイベントに参加した。和泉府中駅周辺の商店街にある「和泉市いずみの国観光おもてなし処」がスタート地点とゴール地点になっている。図3の通り、和泉市北部に位置する泉井上神社、信太森葛葉稲荷神社、池上曾根史跡公園の3カ所を、熊野街道を通りながら訪れるイベントである。その3カ所に宝箱が置いてある。実際に歩いてみてインターネットでは感じとれない、風情のある景色や自然と都会の調和などの和泉市の良さに気付いた。また、宝探しは子どもだけでなく大人も楽しめ、いろんな世代に受け入れられると感じた。



写真-2：池上曾根遺跡



写真-3：泉井上神社



写真-4：熊野街道



写真-5：信太森葛葉稲荷神

## 3-5. 動画制作

和泉市では市をPRするため、CM動画を平成26年11月から約3ヶ月間募集していた。和泉市が動画を募集した理由は、効果的なPRである点、静止画では伝わらない動画ならではの魅力がある点、インターネットの活用で多くの人々の興味を引くことができる点、和泉市のプロモーターとなってもらえる点、話題性、発想力が期待できる点の以上5点である。

そこで私たちは、和泉市の魅力を多くの方に知ってもらうため、この企画に応募した。3-3(2)で、和泉市は「歴史を感じられる街」そして「自然もあり都会の部分も感じられるとかいなか」という意見が出たため、各テーマにつき2つずつ動画を作成した。

### (1) 「歴史を感じられる街」

#### 1. 女スパイ編

井阪硝子製作所：ガラス細工

日本人造真珠硝子細貨工業組合リーナー：人造真珠

道の駅-和泉市南部リージョンセンター：みかん餡パン、みかんくるみもち



写真6：女スパイ編

## 2. 葛の葉稲荷伝説編

伝説「阿倍晴明と葛の葉」

和泉市には多くのその地に関係した伝説がある。その中でも有名なものが「阿倍晴明と葛の葉」の伝説であり、その舞台が信太森葛葉稲荷神社である。その伝説とは、千余年前、阿部野の里（現大阪市阿倍野区）に安倍保名が住んでいた。家名を再興したいとの思いから、信太の森（現和泉市）に日参していた。ある時、狩人に追われている白狐を助けた。その際に手傷を負った保名は、白狐が姿を変えた葛の葉という女性の介抱を受けた。保名と葛の葉は互いの心が通じ合い、離れられぬ仲になり、二人の間には、童子丸（後の安倍晴明）という男の子が生まれた。ある日、葛の葉は、思いにふけて、仮の姿であるということのを忘れ、狐の姿に戻ってしまい、わが子の童子丸にその姿を見られてしまった。わが子に本性を見られた葛の葉は、ともに暮らすのもはやこれまでと、障子に“恋しくば たずね来てみよ 和泉なる 信太の森の うらみ葛の葉”の歌を残して、信太の森へと去り葛の葉は石となったと言われている。そしてその葛の葉が身を写した石と言われる「白狐石」は本殿の奥に安置されている。住宅地の中にひっそりと佇んでおり、独特な雰囲気があり宝探しを行った際に魅了されたため、観光資源になりうると考え親しみやすいようコメディータッチでこの伝説を再現する動画を作成した。



8

写真7：阿倍晴明と葛の葉編



(2)「自然もあり都会の部分も感じられるとかいなか」

### 1. とかいなか JUMPver

池上曾根遺跡：大型建物と井戸

リサイクル環境公園：四季折々の花が楽しめる公園

ららぽーと

コストコ

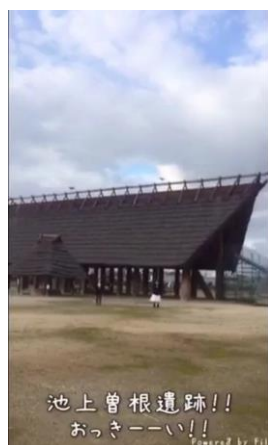
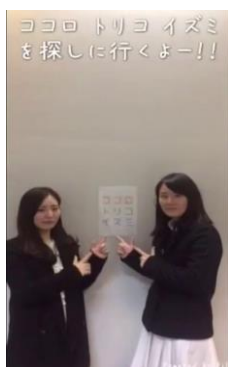


写真8：とかいなか JUMPver 編

### 2. とかいなか 2700ver

観光大使でもある 2700 のネタである右ひじ左ひじ交互に見て～というものに関連付けて、都会と田舎を交互に紹介する。

紹介する場所は上記の JUMPver と同じである。

今回作成した CM 動画は今年の 4 月までに選出され、JR 和泉府中駅や和泉市いずみの国観光おもてなし処 おもてなし処、ららぽーと内のモニター、市のホームページ等で、配信される。動画を配信することで他の地域からの注目も期待できる。



写真9：とかいなか 2700ver 編

## 4章 分析

今回イベント企画や動画の作成等を行い、いくつか課題点が挙げられる。

1つ目に、動画の応募数が少なかったことである。高砂市役所にヒアリング調査を行った際、電車内の広告や新聞広告をイベントの宣伝方法として利用し、その結果イベントの知名度が上がった。そのことから、その2つの方法を取り入れるなど、宣伝方法を拡大すべきではないかと考える。また、動画作成に関して、和泉市内にある桃山学院大学に協力を求めることを提案する。具体的には、学内で活動している写真部や動画研究会を中心に呼びかけを行う。これらを実行することによって多くの人の目に触れ、応募が見込まれる。

2つ目に、動画作成が容易ではない印象を受けることである。実際私たちが動画作成をした際、想像以上に時間がかかり、気軽にできるものではなかった。そのため脚本や編集の必要がない写真を募集し、和泉市が編集してスライドショーを作成することを提案する。また、写真はフォトコンテストで既に募集しているため、それを利用する。よって応募数の増加が見込まれる。

募集した動画の中から選ばれた作品は、和泉府中駅やららぼーと内にあるモニターで流れ、動画投稿サイトにもアップされる。今回の応募作品数は少なかったが、この取り組みを行うことで、多くの人が和泉市を知る機会が増えると考ええる。

3つ目に冬のイベントとして開催された宝探しは、和泉市主催ではなく、企画会社に委託していることである。和泉市自身でイベントを企画し、開催することが重要であると考ええる。

## 5章 まとめ

今回和泉市役所のアピール課の方と研究を進めていく中で、イベントを開催することの大変さを痛感した。企画書作りや当日の手配など細かいところにも目を配り準備をしなければならないことを知った。

この研究で私たちは和泉市の魅力を肌で感じることができた。今後、和泉市が主体となってイベントを継続的に行うことにより、和泉市の知名度がさらに向上する。このことにより、イベントを通じて1人でも多く和泉市の魅力を伝え、来訪意欲を高めていきたい。

引用・参考資料

和泉市公式 HP <http://www.city.osaka-izumi.lg.jp/>

いずみ観光ナビ <http://www.tourism-industry.izumi.osaka.jp/>

たかさご万灯祭 2014 公式 HP <http://mantousai.moo.jp/sone.html>